

友の会だより

2024
Vol.1

春

八代市立博物館の大規模改修工事による長期休館に伴い、八代市立博物館友の会は令和6年度より活動を一部縮小・休止する予定です。(詳細は下記のとおりです)

つきましては、友の会会報「松籟」の発行回数を縮減する代わりとして、このたび「友の会だより」を発行するはこびとなりました。引き続き八代市立博物館ならびに友の会の活動情報を会員の皆様へ発信していきたいと思っておりますので、今後ともご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

【令和6年度以降の友の会活動について】

- ✓ 会員証の更新・新規受付は休止します。
- ✓ 現会員の皆様は手続き不要・会費無料で会員資格を継続できます。
(下表《休館中および再開館後の会員資格について》もご参照ください)
- ✓ 令和6年4月～6月末までは現在ご利用の会員証で展示をご観覧いただけます。
(ご利用できるのは、令和5年度特別会員および一般会員、令和3年度および4年度3年会員の会員証のみとさせていただきます。なお、特別利用券の配布はございませんのでご了承ください。)

4～6月までの展示
予定は2ページを
ご覧ください！



《休館中および再開館後の会員資格について》

	令和6年度 (2024) 7月より休館 (予定)	再開館 (令和8年度頃を予定)
令和5年度 (2023) 特別会員	継続 (手続き・会費不要)	更新案内を させていただきます
令和5年度 (2023) 一般会員	継続 (手続き・会費不要)	
令和3年度 (2021) 3年会員	継続 (手続き・会費不要)	
令和4年度 (2022) 3年会員	継続 (手続き・会費不要)	継続 (会費徴収済)
新規会員 (特別・一般・3年)	新規受付休止	新規受付開始

※会費の自動引落しも令和6年度より一旦休止いたします。

※令和4年度(2022)入会の3年会員様の残り1年間分(令和6年度分)の会員資格は、再開館後の1年間に振り替えさせていただきます。

★休館中の博物館活動については(別紙)「八代市立博物館未来の森ミュージアムは改修工事のために休館いたします。」をご覧ください！

INFORMATION

八代市立博物館未来の森ミュージアム

展覧会のご案内

令和6年4月～6月

会場	特別展示室	第2常設展示室	第1常設展示室[考古・歴史・美術・民俗] (1階)										
			内容	特別展・貸会場	特別展・松井文庫ほか	八代焼	八代城	写真	古文書	信仰	金工	考古	民俗1
4	閉室	新収蔵品展 令和6年3月26日(火) ～4月29日(月・祝)	開催中 ～6/30	通年	開催中 ～6/30	開催中 ～5/19	開催中 ～6/30	開催中 ～6/30	開催中 ～6/30	通年	開催中 ～6/30	通年	開催中 ～5/6
5		松井文庫 お姫さまの 婚礼道具 令和6年5月1日(水) ～6月30日(日)	八代焼 名品選	瓦からわかる 麦島城・八代城	写真家・麦島勝の 世界名品選	喜びを伝える言葉 5/21～6/30	古文書を読む酒	信仰のかたち 極楽浄土へのいざない	肥後掙の 魅力分析	出土遺物が語る 八代の古代 弥生時代～古墳時代	子ども の成長 祝い	むかしの道具と 米作りの道具	和紙 いろいろ 5/8～6/30
6		ペーパークラフト 切組灯籠Ⅰ・Ⅱ											

●入館料 一般 310円(240円) 高大生 200円(160円) 中学生以下・障がい者手帳をご提示の方は無料

※友の会会員の方は会員証で何度でもご覧いただけます。

※5月5日(日・子どもの日)は無料開館日です。どなたでも無料で観覧いただけます。

●開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)

●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)

PICK UP! おすすめ展示作品紹介 *.....*

【企画展】新収蔵品展 【会期】令和6年3月26日(火)～4月29日(月・祝)

近年、八代市立博物館未来の森ミュージアムに寄贈・寄託された収蔵品から、調査や修復を終えた文化財を「肥後の工芸品と絵画」「八代の珍書」「松岡家文書」「近代の世相」という4つのテーマで紹介します。八代の歴史と文化を知るための貴重な文化財、いずれも初公開です。



素銅木瓜形鐺 (すあかもっこうがたつば) 熊本県指定重要文化財
平田彦三作 江戸時代初期(17世紀) 令和5年度寄託

左右に松の形、下部に大小の丸文を透かし彫りし、縁には銀で覆輪をかけています。シンプルな文様ですが、大らかで堂々とした華やかさがあり、桃山時代に好まれた豪壮さが感じられます。作者の平田彦三は、細川三斎(忠興)に仕え、寛永9年(1632)、三斎に従って八代城下に入って活躍、寛永12年(1635)没しました。

第1常設展示室「八代焼名品選」より



江戸時代後期に活躍した上野野熊の作。白土で流れ落ちる釉薬を表現しています。

八代焼流釉文壺 上野野熊作
天保8年(1837) 当館所蔵

第1常設展示室
「肥後拵えの魅力分析」より



細川三斎愛用「信長拵」に似せて作られたもの。肥後拵の基本となる刀装です。

打刀拵
江戸時代
(17~19世紀)
当館所蔵



第1常設展示室「子どもの成長祝い」より



男の子に贈られる、端午の節句の幟旗！

幟旗(のぼりばた)
(牛若丸と弁慶)
昭和時代 当館所蔵

女の子の初正月に贈られる、ながい羽子板！



一間羽子板 昭和時代
当館所蔵

第1常設展示室「和紙いろいろ」より

厚い和紙でできた鯉のぼり。このほか、さまざまな種類の和紙を紹介しています！



鯉幟(こいのぼり)
昭和時代 当館所蔵

【企画展】お姫様の婚礼道具 【会期】令和6年5月1日(水)~6月30日(日)

江戸時代、大名家など上級武家の姫君がお嫁入りするときは、婚礼の儀式に不可欠な貝桶をはじめ、化粧道具や文房具、香道具など、姫君の生活に必要なさまざまな品がそろえられ、大名家ともなると金銀蒔絵をほどこしたものが準備されました。今回の展示では、旧八代城主松井家に伝来する婚礼道具を展示します。



貝桶 (かいおけ) 江戸時代後期 (19世紀)

一般財団法人松井文庫所蔵

もっとも豪華な道具一揃い「七宝折崩桐紋しっぽうおりくづしきりもん蒔絵まきえ婚礼調度」のうちの「貝桶」。全面に金銀の蒔絵でさまざまな動植物が散りばめられています。貝桶は貝合わせという遊びに使う貝を収める箱で、江戸時代の婚礼には欠かせないものでした。

